山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

OB通信

平成12年12月　Ｎｏ･２

発行：７５３－０８３１
山口市大字吉田１６７７－１
山口大学ワンダーフォーゲル部OB会事務局

○　はじめに

山口盆地の朝晩もめっきり冷え込むようになり、学内の落葉した木立も本格的な冬の到来を待っているようなこの季節、ＯＢの皆様方におかれましてはおかわりなくお過ごしでしょうか。３年生以下現役部員たちは春合宿のParty行動に入り、Party一丸となってがんばっております。４年生は卒論の追い込み時期であるもようで、来年３月卒業に向けて学問に勤しんでおります。

さて、今年度の第２号となるOB通信が出来上がりましたので、お届けいたします。編集が遅れ、年末のあわただしい時期の発送となりましたが、OB会そのものを問う重要な内容となっておりますのでじっくりとお読みになってください。尚、OB会についてのご意見、ご質問等ございましたら次のページの連絡先までお願いいたします。Eメールもご利用ください。

OB会事務局

有馬　啓介

また、ホームページも学内に製作中です。まだ白紙の状態ですが、１月中には何とか製作しようと思っております。

http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/　または

http://stu.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/　です。

E－mail：tabidori@stu.cc.yamaguchi-u.ac.jp

２月以降には利用可能な状態にしようと思いますのでよろしくお願いいたします。

OB会の活動について

(1)OB総会

平成12年度OB総会が、去る平成12年11月３日(文化の日)に山口市内の太陽堂旅館にて開催されました。

この総会では、

1　本部OB会と工学部OB会の統合

2　OB会員資格の明確化

③　OB会会則の明文化

という３点を中心に議論が展開され、多数のご意見をいただきました。

総会がはじまって、すぐに「会長職をOBの中から選出すべきである」というご意見が本部第５期(昭和41年度卒)の石松宏紀氏から出されました。予想外の展開で少し驚いたのですが、もともとOB会には会長職があり、会長(OBの中からの)がいないと、本当の意味でのOB会の立て直しは不可能であるということから話はスムーズに進んでいきました。そして、以下の役職がOB総会で決定いたしました。

会　長：末國　弘司氏　本部第３期(昭和39年度卒)

副会長：木山　克彦氏　本部第５期(昭和41年度卒)

総会に出席できなかった木山氏には後日、改めてお電話をし、副会長への就任を承諾していただきました。

①～③の議題の詳細については末國会長の‘新たな展望を～会長就任に当たって～’を御覧下さい。

新たな展望を

～会長就任に当たって～

山口大学ワンダーフォーゲル部
OB会　会長　末國　弘司

OB諸氏におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、事務局から別途報告の通り、11月3日に山口市・太陽堂旅館にて開かれました山大ワンゲル創部40周年記念のOB総会において(実際には、40周年は前倒しなのですが)、OB会の立て直しが議題となり、現在空席になっている会長職の復活が求められました。不祥、小生が防府市在住ということで就任を求められ、お引き受けすることとなりました。副会長は、山口に戻られている木山克彦氏にお願いしました。

このような役目はもっと若い人にお願いしたかったのですが、創部に関わった一人でもあり、OB会の組織固めに微力を尽くすのもまた責任の一端でもあろうかと、思い直した次第です。

古いOB諸氏にはご案内の通り、OB会は過去数度にわたり、組織固めが求められ、方法論等が議論されました。しかし、過去のその時々は、OB諸氏が社会の第一線で活躍されている時期と重なっており、心は逸れどもいざ行動を思うには任せないという状態の連続であったと思います。過去、尽力されたOB諸氏のご苦労の程が偲ばれます。

しかしながら、現在では、創部時期のOB諸氏がそろそろ第二の人生へと移行する頃となりました。従ってOB会の環境は、以前とは状況が大きく変化しつつあり、新たな展望を拓くことが可能な時期に至ったのではないかと考えています。ここに改めてOB諸氏のご協力をお願いする次第です。

OB総会では、まず本部OB会と工学部OB会の統合が議題となりました。基本的には統合の方向で集約されつつあるのですが、工学部OB諸氏の中には種々のご意見があるようですので、まずは工学部の集約を同部のOBに依頼しているところです。統合問題については、農学部も関係することとなりますので、関係学部諸氏に限らず、広く建設的なご意見をお待ちしております。

総会ではまた、OB会会則の提案がありました。しかし、OB会規約については、昭和43年12月に当時の会長深川勝人氏を中心に発効されたものが存在するようであり(OB会報「鳳翮」第3号による)、この規約は手続き上は現在も存続するものと考えられます。新しいOB会則案はこの規約も包括した内容になっていますので，新しい会則の発効と同時に旧規約

を廃棄することにしたいと思います。新しい会則案は別項で提案いたしますので、ここでは基本的な方向性のみを次に提示しておきます。これにつきましても、OB諸氏の忌憚のないご提案、ご意見を期待します。

付言すれば、新会則案も完全なものではなく(意図的に外した条項もあります)、組織が固まるにつれて補完していく所存です。

(1)OB会員資格について

現在は大学卒業時のワンゲル在籍者は自動的にOB会員となっています。しかし現実的には、卒業後はOB会とは距離を置きたい意向の卒業生も多々ある、との指摘がなされました。そこで、

OB会員資格として

1　山口大学に在学中(卒業時ではない)ワンゲル部(学部は問わない)に在籍した経歴を有し、

2　OB会に入会の意志を示した者

をもって構成したいと考えています。

入会の意志表示は、簡便かつ確実な方法として、会費の納入をもって代えたいと思います。逆に、脱会も自由とします。

一方、会費の納入が滞れば、自動的に会員資格を喪失します。現在のところ、滞納者には半期毎に督促状を送り、督促状３回でアウト、では如何かと考えています。会費の納入があればまた復活、です。

その他、OB会員としてふさわしくない行為のあった場合は総会で諮った上で資格剥奪の方法も考慮しております。総会で、会員資格をもっと厳正に規定し律する時期ではないかとの意見が主流であったことを踏まえての、方向です。

つまり、OB会員たる意志を明確に有する者を正会員とし、卒業時の在籍者はOBとして名簿に残すのみとします。

組織をより強固なものにするため、OB会員諸氏には山口大学ワンゲル部OBとしての誇り高き自覚を維持すると同時に、OB会の目的遂行に積極的に協力していただきたい、というのが私の希望であります。

とはいっても、現実的には仕事が優先する社会でありますから、その意志は十分にあっても実際には諸行事等に参加できないというのが本音であろうかと推察します。

そこでOB諸氏におかれましては、まずは会費納入で会員たる意志を明確にしていただき、次いで諸事に建設的な意見を出していただきたい。手は出せなくても口は出せるのではないでしょうか。そして、時間は出来るものではなく作るものですから、積極的に時間を捻出し会の行事に参加していただくことを、切に希望します。

OB諸氏の意見がリアルタイムで届くように、近い将来、ホームページの開設を検討しています。またOB会事務局は現在、名目上はW.V.部内に置き実際には事務局長の住居を転々としていますが、この事務局の固定化も視野に入れております。

(2)OB会の目的、組織について

1　まず、現役諸君の活発な活動があってこそのOB会ですから、**山大ワンゲル部の発展に寄与**し、

2　OB会の組織をより強固にし発展させるために、**会員相互及び現役部員との親睦を図る**ものとします。

3　**各地方(東京、関西、九州等)に支部を置き、支部毎の活動を盛り上げたい**、と考えています。支部の活動に本部も積極的に関わるようにしていきたいと考えています。また、OB総会を各支部の持ち回りにする等の方法も、あると思います。

4　**将来はOB会として遠征隊が出せる程度の組織と技量を有する集団にしたい**、と思っています。

5　**会計も、現在は同一会計内で遭難対策費を確保しつつOB会の経費も処理していますが、いずれ遭難対策費は別会計にしたい**と考えています。

(3)OB会の名称について

総会で、OB会のワッペンを作ってはどうか、との意見がありました。

現在、山口大学ワンダーフォーゲル部OB会(略称Y.U.W.V.OB会)と称していますが、この際、ワッペンの図案と同時にOB会の名称(例えば、Y.U.W.V.OB「鳳翩会」のような)を募集します。採用作品には何らかの賞品(賞金？)を出したいと考えております。多数のご応募お待ちします。

最後になりましたが、OB会を立て直すには、まずOB諸氏の消息の把握が急務です。名簿をご覧になればお分かりのように、空欄が目立ちます。21世紀を迎える新年を機にして同期を中心にして消息を確かめ合い、重複は構いませんのでぜひ事務局へご一報下さるよう、お願いいたします。

また転居の際は、忘れずに事務局へもご連絡下さい。

名簿も内容の充実とともに装いを新たにしたいと、目下検討中です。Eメールのアドレスもお知らせ下さい。

以上、いろいろとお願いすることばかりになりました。各募集事項につきましてはまた夏前に改めてご案内する予定ですが、次回総会ではある程度の取りまとめをしたく存じますので、前期事項について(応募やご意見を)早めにお寄せくださるよう、切望します。

OB会会則(案)

(名称)

第一章　本会は山口大学ワンダーフォーゲル部(略称　Y.U.W.V.OB会)＝仮称＝と称する。

二　事務局は山口大学ワンダーフォーゲル部内におく。

(目的)

第二章　本会は会員相互の親睦を図り、山口大学ワンダーフォーゲル部の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3章　本会は第二章の目的達成のために次の事業を行う。

二　会員相互間の親睦に関すること。

三　山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助、指導助言等。

四　会報及び会員名簿の発行。

五　その他本会の目的達成のために必要と認められる事業。

(組織)

第4章　本会の会員は次の通りとする。

二　正会員　山口大学在学中に山口大学ワンダーフォーゲル部に在籍した経歴を有し、且つOB会に入会の意志を表明した者

三　準会員　山口大学体育会ワンダーフォーゲル部員
　　山口大学工学部学友会ワンダーフォーゲル部員

四　正会員たる有資格者の入会及び脱会は自由とする。入会の意志表示は会費の納入をもってこれに代え、脱会はその意志を表明で認め、総会に報告する。

第五章　正会員は次の場合、その資格を喪失する。

二　会費滞納者には半期(半年)毎に督促状を送付し、督促状三回をもって自動的に正会員の資格を失う。
　但し、再度入会の意志表示があった場合はこれを認める。

三　会員としてふさわしくない行為のあった者

第六章　本会には次の役員を置く。役員の任期は二年とする。但し再任は妨げない。

二　会　長　一名
　副会長　一名
　支部長　各一名
　会　計　一名
　監　査　二名
　事務局長　一名

三　会長は会を代表し会務を総括する。

四　副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。

五　支部長は各支部を総括する。各支部はその必要に応じて幹事等の役員を置く。
六　事務局長は山口大学ワンダーフォーゲル部の直前主将が務める。
但し、直前主将に支障あるときは直前の副主将または直前主将が指名する者がその任に当たる。

(総会)
第7章　総会は次の通り開催する。
二　定期総会は年一回とし、必要に応じて臨時総会を開催する。
三　総会は会長が招集する。
四　総会への出席は委任状をもって代えることができる。
五　議事は総会の出席者(委任状を含む)の過半数で議決する。

(会計)
第八章　本会に会計を設け、会計及び寄付金、その他事業収入をもって会の運営費に当てる。
二　正会員の会費は年二千円とし、五年単位の一括納入を認める。
三　寄付金は一口千円とし、常時受け付ける。
四　会計報告は監査報告と併せ、年一回定期総会で行う。
第九章　本会には別会計として遭難対策基金(仮称)を設ける。
二　遭難対策基金には、OB 会会計から支出し積み立てるものとする。
三　遭難対策基金の支出は会長が判断し、できるだけ速やかに会員に報告する。

(その他)
第十章　本会則は総会出席者の三分の二の賛成を得て改正することができる。
第十一章　本会則は平成　　年　　月　　日をもって発効する。

付則　本会則の発効をもって昭和 43 年 12 月制定の OB 会則はこれを廃棄する。

また、OB 会の運営がスムーズに行えるように、各代に同期の現住所等を把握した幹事を設定しては、というご意見もいただきました。今年度卒部生からは幹事を決めていくつもりです。OB の皆様も各代で幹事を決めてみてはいかがでしょうか。縦のつながり以上に横のつながりは大切です。決まりましたら御連絡ください。

OB 総会には多数の OB の方々がご出席して下さりました。誠にありがとうございました。以下にご出席して下さった OB の方々をご紹介いたします。
本部第３期　末國弘司　　本部第５期　秋山邦雄　石松宏紀

本部第10期　山本充二　　本部24期　松本勲
本部29期　松隈好兼
本部32期　岡田猛　小渕由紀　冨吉秀記　原秀樹
工学部36期　堀江淳一　　本部37期　内田幸子　國清順一　渡部　玄
本部38期　立石広美　福山英生　藤井良和

敬称略

・今回、創部40周年を迎えるにあたり、末國会長の了承を得て新しい部旗を購入させていただきました。大切に使わさせていただきます。

ご意見、ご質問、募集事項等はOB会事務局までよろしくお願いいたします。

工学部OBの皆様へ

先日お送りしたOB会統合についてのアンケートの回答をよろしくお願いいたします。まだアンケートを受け取っていらっしゃらない方は下記の連絡先までよろしくお願いいたします。アンケートを受け取られたか各代で確認していただければ助かります。

佐伯　英敬

(2)OB会費

今年度OB会費を納入してくださった方々をご紹介いたします。一括納入していただいた方には、会費納入済み年度の数字を(　)内に記してあります。どうもありがとうございました。

前回のOB通信で、第16期の秋山高弘氏はすでに平成12年度のOB会費を納められていたにもかかわらずこちらのミスにより掲載されませんでした。この場をお借りしてお詫びを申し上げます。

振り込みについて

OB 会費は、現在のところ主として OB 通信発行に使われていますが、現役部員の活動における緊急時にも使われます。また、今回より OB 会員資格にも関わってきます。まだ、納入されていない方は、下記へ納入して下さるようお願いいたします。尚、１年分納入と、5 年分一括納入の２種類ありますので、どちらかでお支払い下さい。

１年分会費 ―――――――― ２０００円

5 年分会費一括納入 ――― １００００円

尚、納入先については以下のようになっております。

郵便局：０１５３０－０－１６０５０ 山口大学ワンダーフォーゲル部

※会費を口座に振り込んで下さる際、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた方の御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きますので、お手数ですが払込用紙を使って会費を納入して下さりますようお願い申し上げます。

(4)OB 名簿について

前回お届けいたしました OB 名簿で記載事項の誤り、変更、追加等がありましたので、訂正をお願いいたします。前回お届けした工学部 OB 名簿はほとんど空欄で大変申し訳なく思っておりましたが、OB の堀江氏や現主将の佐伯、そして多くの OB の方々のご協力もあり、大変立派な名簿が完成いたしました。お届けいたします。しかし、未だ本部 OB 名簿は空欄が目立ちます。事務局としても今年度中にすべての OB の方々消息の把握する方向で動いておりますのでご協力のほどよろしくお願いします。

・本部第３期(昭和 39 年度卒)、山本俊雄氏はすでにご他界されているとのことです。御報告が遅れ大変申し訳ございません。謹んで御冥福を御祈り申し上げます。

こちらのミスにより OB 会名簿に謝りがあり、御迷惑をおかけした OB の皆様にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

工学部は同封いたしました OB 会名簿を御覧下さい。

追いコンINFORMATION

－山大ワンゲルを去ろうとする若人には、
ただ洋々たる前途があるのみ－

今年度の追い出しコンパを下記のように開催することを御案内申し上げます。例年ですと追いコンの前にOB総会を行っていましたが、すでに11月に行いましたので、今回はありません。御了承ください。しかし追いコンはOBの皆様と卒部生(新OB)、現役部員がともにお酒を酌み交わし、語り合う数少ない貴重な機会です。どうかお誘いあわせのうえ、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。参加をご希望される方はお手数ではございますが下記の連絡先へお電話下さるようお願いいたします。

本部追い出しコンパ

［日時］平成13年１月20日(土)　19：00～

［場所］太陽堂旅館(山口市道場門前通り、083－922－0897)

参加をご希望される方は下村公子まで

工学部追い出しコンパ

［日時］平成13年１月13日(土)　18：00～

［場所］常盤工業会館(工学部常盤キャンパス正門前)

宇部高専と合同で行います。

参加をご希望される方は佐伯英敬まで

40周年記念行事報告

去る１１月３日、４０周年記念行事の東鳳翩登山、OB総会、４０周年記念コンパを行いました。心配していた天気もさわやかな秋晴れとなり、登山の方は予定通り行えました。工学部、本部の１～４年の１８人と、OBの方８人の計２６人で、4 partyに分け山行を行いました。各partyで現役、４年生、OBといろいろ話も弾んだようでした。肩にてエッセンの予定でしたがピークに予想以上に人が少なく、また時間も少し押していたので、ピークにてエッセンとしました。このとき、現役部員の手際が悪くOBの方を待たせてしまい、この場を借りてお詫びします。

下山はさくさくと１本で天花畑まで行き、タクシーで山大まで帰り、一時解散としました。

６時から太陽堂旅館にてOB総会、７時からコンパの予定でしたが総会が延び、約１時間遅れのコンパ開始となりました。コンパではさらに多くのOBの方々と話をすることができ大変良い場になったと思います。また昼の登山で偶然出会ったOBの方もコンパに参加されるといううれしい出会いもありました。コンパは９時３０分終了予定でしたが、太陽堂のおばちゃんに頼み込んだところ、約１時間の延長を許してもらいました。最後は、いつも通り

旅鳥斉唱、巻頭言で４０周年記念行事を締めくくりました。

参加してくださったOBのみなさまには大変感謝しております。どうもありがとうございました。

40周年記念行事実行委員長　sakima

現役部員近況告

～本部編～

2000夏合宿報告

1)　東大雪～表大雪Party

おそらく一年間のワンゲル活動で最大の行事である夏合宿は、ヒグマの出没によるエスケープという残念な形で幕を閉じました。しかし、この合宿における準備期間を含め、現役部員たちにとって大きな成長を遂げることができた合宿であったと思います。そう考える理由として、自分たちのParty は特に、思い通りに準備が進まなかった事がいえます。苦労した分だけ，P-men の精神的、体力的成長も大きかったと思います。

Party 行動は例年に比べ、約一ヶ月伸びました。これは夏休み後にあった前期試験が今年から休み前になったことによります。その長いParty
行動の中で、P-W、錬成などの条件を段階的に行う予定でした。が、Party 行動に入ってすぐの六月下旬に自分が交通事故で右手首を骨折してしまい、当初の計画を大幅に直すことになりました。結果的には八月はじめには完治したのですが、それまでしていなかったParty での山行を立て続けにすることになり、P-men や他Party、先輩方に非常に迷惑をかけてしまいました。

錬成にも手こずりました。ブッシュを想定し、ノーマルコースを選びましたが、はじめは時間が掛かりすぎエスケープ。二度目もやっとの事でクリアしました。しかしこの錬成では、一年生の二人が「がんばる」事において飛躍的に成長したと感じました。それを実際の夏合宿で確かめることができなかったのが残念でなりません。

本番の夏合宿についてですが、実際行った行程は１日目のテン場のブヨ沼までのピストンという結果になりました。

まずはアプローチ。鈍行とフェリーで北海道まで行ったのですが、こののんびりとした旅気分はとても良かったと思います。フェリーは全く揺れず、心配していた船酔いも取り越し苦労に終わりました。約３日かけ、無事テン場の糠平キャンプ場までたどり着きました。前述の通り、合宿に行けないかもしれないという雰囲気がP-men 内で濃厚だったので、北海道

に来られただけで僕たちは喜んで、アプローチ中でもいろいろと感激したものでした。

合宿中最初で最後の登りとなってしまった１日目は、もともと合宿最大のアップでした。タクシーで登山口まで行き、じわじわと登っていきました。はじめは樹林帯で、北海道にいる実感はあまりわきませんでしたが、十石峠にたどり着き、稜線にでると、見渡す限りの樹など全く見えない大自然が望めました。この風景は、まさに想像していた北海道のイメージ通りでした。ユニ石狩岳を右に望みながら、大きな固まりのような石狩山地の稜線を歩き、テン場のブヨ沼に着いたのです。翌日は雨が朝から降り、沈。夜になるとガスり始めました。この日、P-men の一人が前日の夜、大きな動物が歩く音を聞いた、といっていましたが、まさかヒグマではないだろうと笑ってすましただけでした。

十九時にはみんな眠り、外はもう暗く、ガスがたち込めていました。すると何かが近づいてくる音がかすかに聞こえます。その音は大きく、近づいてきます。はじめは人かと思いましたが、鈴の音がしません。外に出て確認しようとしましたが、暗くてよく見えませんでした。黒く大きな影が動いたのだけがわかりました。ヒグマと判断し、朝までコッフェルをたたき大きな音を出し続けました。翌日下山し、十勝三股で電話連絡。合宿を終了としました。

この合宿で一番反省すべき点として、ヒグマによって下山した後、再び入山できるように準備していなかったことです。十分可能性として考えられたことだけに悔やまれます。

短い合宿でしたが、P-men の交流という点では最高によいものだったと思います。みんなが楽しんでくれたのがなによりよかったと思います。P-men の一年生が、「僕が三年になったらまた北海道のこのコースを合宿で立てたい。」と言ってくれたこともうれしく、いろいろありましたが良い合宿でした。

PL　sakima

コースタイム

・１日目　ぬかびら野営場 ―タクシー― 登山口 → 十石峠 → ブヨ沼

6：05　6：46　7：00　12：30　12：57　13：54

（６本　４：３３）

・２日目　　沈殿

・３日目　ブヨ沼 → 十石峠 → 登山口 → 十勝三股

7：00　7：56　8：13　11：00　11：13　13：51

（７本　５：１０）

合計１３本　９：４３(すべてアタックザック行動)

２泊３日(１沈)

2)　表大雪～十勝連峰 Party

今年の夏合宿はアプローチに３日かけ、船を利用し北海道へ向かいました。船中では人数

の関係で、オッチェン、メッチェンが別室になり、また船での生活が長くなってしまったのもあり、P-men に緊張感のなさを感じ取れましたが、北海道が近づくにつれそれはなくなり、合宿に対する意識が高まっているようでした。

１日目　8/25

この日はガスっており、非常に寒く感じました。姿見駅から旭岳駅のロープウェイには始発にも関わらず、人が思った以上に乗っており安心感を覚えました。そこから旭岳までの急登をただひたすらに歩いて旭岳についてもガスであまり展望もなく、ただ寒いだけでした。

旭岳をすぎてからは人もいなくなり、長い道のりのアップダウンにうんざりしながら歩き、P-men にいつもの元気がなくなった頃、一人のおばさんが向かい側から勢いよく下ってきました。それを見た P-men たちも勇気づけられたようで、元気を取り戻し、白雲岳避難小屋に向かいました。

２日目　8/26

この日は朝から雨で沈を決定しました。

３日目　8/27

この日はすべてサブザック行動で、また空も気持ちいいほど晴れていたので、足どりも軽く山行を楽しんでいるようでした。白雲岳はもちろん赤岳も思った以上によい場所で景色もよく北海道の雄大さを満喫できました。緑岳に着くとガスが東斜面から上ってきたので急いで出発しました。途中、谷に下る沢がありそこがとても気持ちのよい場所であったので、避難小屋はすぐそこというのに思わず休憩をとってしまいました。

４日目　8/28

この日は朝からガスがかかっており、鈴を鳴らしながら歩いてゆきました。ぬかるんだ道やハイマツ帯をひたすら歩き、やっとの思いで忠別岳についても展望もなく少し沈んでいたところで、東京大学のワンダーフォーゲル部の Party と出会いました。引きつつも少し会話をして、負けるかとばかりに向こうの知らなかった旅鳥を斉唱しながら足早に忠別岳避難小屋へ向かいました。

５日目　8/29

前日の夜に降った雨に濡れたハイマツをかき分け、服をビショビショにしながらも元気よく行程を行いました。この日のテン場、南沼キャンプ指定地に着く頃にはみんなバテ気味になっていましたが、そこでテントを張り、アタックを入れ、サブザック装備でトムラウシ山に向かいました。トムラウシ山からの眺めはこの上なく、思わずストームをしてしまいました。

６日目　8/30

この日はひどいガスでしたが、少しだけ待ち出発を決定しました。笹の苅分道は非常にひどく、足下が全く見えないところもあり、転げるものもいました。

７日目　8/31

この日は晴れて、久しぶりに下界に戻れるということで、足取りはとても軽いようでした。

この合宿のほぼ最後のピークのオプタテシケ山からは十勝岳が望め、まるでその存在を主張しているようでした。

この夏合宿は、美瑛富士避難小屋の水場が涸れ、十勝岳に行けなくなってしまいましたが、非常に恵まれていたと思います。人が比較的多い場所からコースが始まったのでいろいろな情報を得ることができましたし、また安心感もありました。P-men も好ペースで行程を行ってくれました。自分一人の力ではこの夏合宿を成功さすのは無理でした。夏合宿を通じて自分の至らなさをひしひし感じました。しかし、何はともあれ、全員けがもなく無事に下山させることができたこと、合宿を全コース行けたことで合宿としてはよかったと思います。これらの反省点を生かし全身全霊で残りのワンゲル活動に励みます。

PL　田部　芳樹

コースタイム

・１日目　旭岳温泉 → 姿見駅 ―― 旭岳駅 → 旭岳
（ロープウェイ）
5：32　5：45　6：00　6：10　6：25　8：38　9：00
→ 白雲岳避難小屋　（９本　４：３５）
12：59

・２日目　沈殿

・３日目　白雲岳避難小屋 → 白雲岳 → 赤岳 → 緑岳
5：00　5：50　6：20　6：58　7：20　8：17　8：22
→ 白雲岳避難小屋　（６本　３：３８）
9：08

・４日目　白雲岳避難小屋 → 忠別岳 → 忠別岳避難小屋
5：00　8：03　8：40　9：37
（４本　３：２８）

・５日目　忠別岳避難小屋 → 五色岳 → 化雲岳
5：02　6：13　6：23　7：48　8：00
→ トムラウシ山 → 南沼キャンプ指定地
12：38　13：26　13：41　（９本　４：４５）

・６日目　南沼キャンプ指定地 → 双子池キャンプ指定地
5：10　13：30　（９本　５：３１）

・７日目　双子池キャンプ指定地 → オプタテシケ山
4：32　6：39　7：05
→ 美瑛富士避難小屋 → 白金温泉　（９本　５：４９）
8：48　9：10　13：03

合計４６本　２７：４６　　うちサブザック行動　４：１１

６拍７日(１沈)

アフター報告

谷川連峰 Party

９月４日夜、P-MEN の徳永君と佐藤君とで旭川駅にステイションに向かい、駅の近くの駐輪場で人目をはばかりながら晩のエッセンを作る。他のアフターパーティーと１年生合宿パーティとの振り分けであまった米を処理するため夜飯一人２合ずつとなってしまったがみんな食べきった（この四人のうち三人はココイチでカレー１３００ｇクリアーしたツワモノである）。エッセン終了後ステイションする場所を浮浪者に注意して探した。シュラフにくるまりみんな眠りに就いた頃、深夜に出発するメッチェンアフターパーティがちょっと僕らのところに立ち寄ったがみんな寝ぼけ眼で見送っていた。朝のエッセンもやはりひとり１．５合たべた（というより食べなければならなかった）。６時１２分の電車に乗り南小樽に８時５１分につきそれから夏合宿のアプローチで来た道を戻り小樽港にむかう。二度目のフェリーだ。今回の夏合宿ではじめてフェリーにのったが楽しいものだ。いつか又２等客船に乗ってどこかを旅してみたい。船内で一泊し翌朝５時半に新潟港についた。近くのバス停から新潟駅に向かった。新潟駅から長岡に行きそこで電車を乗り換え土合へと向かった。土合で工学部の原君と吉田君と落ち合う予定で先に二人は着いてるものと思っていたら一緒の電車から降りてきた。ちょっと感動的な再会だった。お互いの夏合宿の思い出もそこそこにテン場の谷川岳登山指導センターに向かう。センターで登山届を出して途中にあったお土産やさんにいってそれぞれ買い物をした。１６時にエッセン。今日のご飯もいつもより多めだ。今日のエッセンは工学部３年生の佐伯さんと本学３年生田部さんと下村さんにいただいたウイスキーを入れたカレーだった。ウイスキーに目のないＴ君はちょっと酔ってしまったのか興奮気味であった。食後のデザートとして１年生からもらった差し入れのふたつの缶詰があった。しかしどちらもラベルがはがされていた。缶詰の中は本当にデザートなのか？デザートだったら何なのか？みんなで缶詰を振って吟味した結果、みかんであろうという結論に達した。いざ開けてみると何と中身はアスパラだった！こんな楽しいことを考えるなんて、しかもアフターの差し入れでそれをやってしまうとは、なんて素敵な、なんて頼もしい１年生だろうか！しょうがないのでせっかくカスッたばかりのコッフェルにアスパラとコンソメとにんにくを入れにんにくスープにして食った。長旅の疲れかウイスキーで酔ったのかみんな早目に寝た。

３時起床で４時２０分にはパッキングが終了し明るくなるまで待って５時に出発。いよいよ私のアフターの開始。西黒尾根から登ったのだがけっこうきつい（途中で１回道を間違えてしまった）ラクダの背の鎖場は思ったよりすごくてこれを本当にアタックで登れるのかと一瞬おもったほどだ。初めの方は晴れていたがだんだんピーク付近がガスって来た。

稜線に出ると穂高、剣に勝るとも劣らぬ岩場、一の倉沢がみえる。言葉にならない。やはり大自然の前で人間はひれ伏せるしかないのか。まるでこの沢が「近寄るな、触れるな」と言ってるようだ。昔の人がこの荘厳な岩場に神の存在を求めていたのも無理な話ではない。ほぼコースタイム通りに肩の小屋につく。最近できた綺麗で広い小屋だ。水さえあればここにとまりたかった。小屋には東京農大の山登りサークルの方がいた。小屋の使用者ノートをみると岡山大の夏合宿パーティーも来ていた。小屋で昼のエッセンを食べて谷川岳山頂トマの耳、オキの耳をめざす。ガスって展望ゼロ、記念写真をとってさっさと一の倉岳を目指す。これがきつかった。そんなにきつくはない予定だったのにちょこちょことアップダウンがくりかえしルートが不明瞭だったりして時間を食ってしまった。一の倉岳までのラスト一本は錬成チックできつかった。ピークは一の倉沢の荒々しさとは対照的にここがピーク？とおもうほどなだらかだった。そこから茂倉岳をスルーしてテン場の茂倉岳避難小屋に１３時３０分についた。水場は本当にチョロチョロしかでておらずなかなか集めるのに苦労した。専修大の４年生のワンゲルの方も３人後からやってきて彼らも小屋に泊まった。今日のエッセンは昨日の失敗をもとに缶詰がデザートでなかったらエッセンに入れて食べられるように初めに缶詰を開けた。きょうはみかんだった。みんな歓声を上げる。今日は６時半就寝で専修大の人達がうるさくてなかなか眠れなかったが３０分ほどして気を遣ってくれたのか、彼らも寝てくれた。茂倉岳で御来光を拝むために４時半出発なかなか綺麗な景色だった。写真を撮りまくっていよいよ下山だ。木の根がぼこぼこ生えていてなかなかダイナミックで下山路も楽しませてもらった。登山道の終盤は滑りやすくＴ君はごろごろ転がっていた。9時１０分土樽駅に着きアフター終了。越後湯沢まで電車で戻り温泉に入り下山ﾋﾞｰﾙで乾杯。

初めての自分の立てた山行がアフターということでなかなか準備がたいへんでしたが、得たものはその苦労を遥かに上回るほど大きかったです。

いろいろとアドバイスして励ましてくださった先輩方、連絡先をしてくださった田部さんと下村さん、差し入れを下さったみなさん本当に有難うございました。

PL　藤井　祐介

２） 利尻岳 Party

２０００年９月５日から９月９日まで、北海道の利尻島でアフターを行いましたので、結果を報告いたします。

9/5（火）晴れのち曇り

車内放送で目が覚めます。私たちが「特急利尻」に乗り込んだのは、深夜１時を回った頃でした。時計に目をやるとすでに針は５時を指しています。眠い目をこすりながら窓の外に目をやると、ずっと心に思い描いていた通りの利尻富士が、紺碧の日本海に浮かんでいました。私たち３人は言葉を失いました…。

稚内フェリー乗り場でアクシデントが起こりました。子供料金で乗船券を買ってしまっ

たのに気づいたのは、出航の１分前でした。あわてて買い直してダッシュで乗り込みます。フェリーの中は大勢の観光客でにぎわっていました。天気も良いです。青い空をバックに利尻富士が近づいてきます。夢中でシャッターを切っていると、２時間あまりの船旅もとても短いものに感じられました。

利尻島に降り立つと、この日は島の人も驚くほど珍しく天気がよいと言うことで、ピークをはっきりと見ることができました。いよいよ海抜ゼロ㍍からの登頂が始まります。有冨さん、英子ちゃん、よろしくお願いします！

9/6（水）曇りのち雨

昨日心配していた通り、今日、明日はあまり天気が良くないようです。ガスっていて、ピークも見えなかったので、沈を決定しました。沈は沈で楽しいものです。

9/7（木）雨のち曇り

今日も沈を決定です。やはり明日にかける事にします。

隣のテントのライダーと仲良くなりました。みんな明日まで待つようです。

9/8（金）

ついに利尻を制覇するときが来ました。天気も予報通り最高です。２沈した甲斐がありました。テン場から１０分で日本名水百選の一つである甘露泉水に到着です。口に含むと、とろっとしていて甘くて本当においしい水でした。

気持ちの良い林の中を進み、急登を終えた５合目で休憩をとります。眺めが良く、ほかの登山者も数人休憩していました。この日の行程は、１５００㍍アップと言うことで、ここから後は、ほとんどが急登と言ってもよいくらいでした。特に９合目付近からは、足がかりとなるような部分がまるでなくなってしまっていて、小粒の火山礫で大変歩きづらかったです。これは登山者の急増による弊害であると言うことで、とても複雑な気持ちになりました。足で稼いだ展望は、最高なものです、海に囲まれた独立峰からの眺めは、すごいの一言につきます。合宿でアルプスや大雪を縦走したときに見る景色とはまた違うものがありました。

「はじめて見るもの」にたくさん出会えた、利尻登山でした。

9/9（土）

アフター最終日がやってきました。利尻山の全容が見渡せるポン山と、その隣の小ポン山、それから姫沼へと向かいます。小ポン山の展望は今ひとつでしたが、ポン山からは樹林に浮かぶ利尻山，これから向かう姫沼、隣の礼文島を見ることができ、予想外の展望にみんな大満足でした。ここから姫沼までのコースは、島に渡ったけれど利尻山に登る時間や体力がないという人にうってつけの探勝路でもあるようで、とても充実した時間を過ごすことができました。残念ながら、逆さ富士を見ることはできませんでしたが、小さなかわいい姫沼をみんなで一周して、テン場までゴミを拾いながら帰りました。利尻島を深く知ることができたように思いました。

このアフターで、PL の仕事、責任、あるべき態度というものを勉強したいと思っていまし

た。そして自分が本格的な今回のようなPLをした時に、どのような心境になるのかというのも興味がありました。天候判断の難しさは前から聞かされていることでしたが、今回は本当にそれを実感しました。利尻は海の中の独立峰と言うこともあって、天候判断が難しく、私にとって大きな壁となり、今後力を入れて勉強していかなければならないものの１つだと、再確認することができました。この経験を３年生になる来年に生かしていきたいと思います

PL　村井　容子

１年生合宿

AP

ついにこの日が来た。住み慣れた？神楽岡公園を後にして僕らはニセコに向かうことになった。ニセコへはJR旭川駅から札幌駅に行きそこからJR函館駅本線に乗り換えてニセコ駅に行き、そこからバスに乗ってからニセコ野営場へと行くのがAPだ。APで驚いたのはJR函館本線が山口線と同じくあのワンマンカーだったこととその中で会ったおばさんたちがやたらと僕らに話しかけてきたことだった。そのようなAPもあっという間に終わりニセコ野営場に着くとカラス達がたくさん僕らを歓迎してくれていた。ニセコ野営場ではまず受付の人が「ここでは狐とカラスに気をつけてねっ」と言っていた、があまりそんなことは気にしなかった。それから僕らは次にテントを設営して、そして、夜のエッセンであるカレーを作り始めていた。するとなんとカラスが僕らの福神漬けを食べているではないか…。僕らはすぐにカラスを追い払い、福神漬けを取り返してから福神漬けを見てみると何とも無惨な姿で福神漬けがそこにあった。結局この日のエッセンには福神漬けを入れずにカレーを食べた。APの夜は、このようなブルーな出来事があったが、そのようなことはなかったかのようにみんなで談笑しているとあっという間に時間がたっていたので明日の行程が長いのでみんなを眠らせた。

１日目

昨日は（ワンゲル的には）結構遅い時間に寝たが、朝はすっきりとした目覚めだった。と言うのも今日の行程は僕が楽しみにしていた沼巡りだからだ。でも少し残念なことに、天気が少し優れなかった事だ。朝のエッセンをすまして１日目の行程をスタートした。大沼まではニセコ野営場から１時間１０分ほどしかかからず以外と近かった。大沼はその言葉通り「大きい」といったのが最もよく当てはまっていた。それから僕らは大谷地湿原と言うところへと行った。そこでは日本ではここでしか見られないと言うフサスギナが自生し、ここは高山植物の宝庫だったはずであったが僕にはフサスギナがどんなものであってどんな形をして知るかも知らなかった。何とも情けないPLであった。さらに僕らが行ったのは、９月であった事もあって大谷地は僕のイメージからかなり外れていた。大谷地があまりにも僕が考えていた物とはかけ離れていたために、僕は次に行く神仙沼に期待を膨らませた。と言う

のも神仙沼はニセコ周辺にある多くの湖沼の中で最も美しいと言われているからだ。大谷地から３０分ぐらい歩いて神仙沼に行ってみると、これは期待通りでもう少し天気が良かったらと思うほどきれいだった。それから長沼へと行き湯本温泉まで行ってそこで昼のエッセンを食べた。五色温泉へ行くバスに乗ってから五色温泉に入ってからは夜のエッセンよりも１日目の“飲み”の事だけを考えていた。夜のエッセンも早く済ませてから飲み会をスタートしようとしたが差し入れのスイカがあった。４人で１個を食べなければならないためみんなおなかが一杯になった。そんなことも関係なしに僕らはお酒を飲み始めた。飲みではみんなの事が今以上に深く見えてきた!?多々納はワイン好き！（みなさん多々納にワインやお酒を飲ましてやってください）藤田は飲みを断れないタイプ！柴崎は笑い出すなどのみんないろいろな個性を出してくれた。（まあ、ほとんど知っていたが…）僕はと言うといつの間にかお酒にやられてしまったのであんまり覚えていないがみんな僕が思ったよりも飲んでくれていた。このようにして１日目の夜も更けていった。

２日目

昨晩飲んだお酒もぬけ、今日は標高１３０８㍍のニセコアンヌプリに登る日だ。このニセコアンヌプリは急登が２カ所くらい、なかなかつらそうだと思った。入林記帳所に名前を書き、いざ登り始めると、昨晩に降った雨のせいで足もとが悪くなかなか登りにくかった。でもコースの真ん中ぐらいに当たる、遭難碑のところまでに予定よりも早く着くことができた。そこからピークまでもあっという間に着くことができた。アンヌプリのピークはと言うと僕らが登り始めてから少しガスってきたために、あまりよく見えなかった。ちなみにもしガスっていなかったら近くの羊蹄山やニセコ連峰、遠くでは積丹半島までも見えるそうだ。ピークは冷たくてガスっていたために少し休憩をしてからすぐに下山した。下山するときもガスがなくならなかったために、あまりよく風景を見えなかったのが残念です。

p-men

PL・会計	大隅直樹
SL・装備	多々納智
エッセン・衛生	柴崎洋子
気象	藤田康雄

第40期執行部近況報告

私たちが執行部を持ってから、８ヶ月が過ぎました。ここまで執行部として活動して、ようやく執行部３人の役職も板に付き、後輩からの厚い信頼も得ることができたように思います。

執行部３人と書きましたが、当初私たちは４人いました。１人退部したのです。彼女の退部についてはずいぶん前からもめていました。詳しい経緯は述べませんが、実質前期いっぱいでの退部です。

私はワンゲルが好きですし、もちろん部員全員が好きです。少なくとも執行部員は皆そう考えていると思っていました。そのため、彼女が退部したことは私たちにとって大変ショックでした。たとえ退部したい人間でも、執行部員である以上、説得して最後まで続けさせるべきだったのか、それとも、やる気が無いのならば本人の思い通りやめさせる方がよいのか悩みました。主将としての立場で自分は結局、後者を選んだのですが、この判断が正しかったかどうかは周りの人間が決めることなのでしょう。

さて、残り３人の執行部で後期の活動を行っています。３人と少ないので、いつも顔を合わせていて、特に話し合いを開かなくても話し合いがすぐにでき、常に執行部のこと、部のことを話し合っています。これは少人数故のメリットと言えるでしょう。

今年度の後期は特に１０、１１月に例年以上に行事があり、忙しかったですが、充実したワンゲル活動ができました。北九州連盟の合ワンにも招待され、北九州大学、下関水産大学との新たな交流が生まれたことも今年度の大きな収穫の一部といえるでしょう。ただ、土日が毎週つぶれることによってF.W.の件数が減っていることはいただけません。

春合宿は、３年が減ったこともあり、夏合宿と同じく２パーティーで行います。春合宿は幅広い活動を目指していますが、２パーティーでそれができるのかは疑問が残る点ですが、仕方がありません。

現在、ますます山口大学ワンダーフォーゲル部の部員数は減少しています。現時点で、現役部員は１２人。今後も、いままでと全く同じように活動していけば減少傾向は変わることは無いでしょう。他大学に着いても同様であると思います。今のワンゲルに求められているもの、それは、新しい活動形態を模索していく姿勢と、それを許す部の柔軟性であると私は思っています。しかし、それは山大ワンゲルの伝統を重んじた質実剛健なスタイルとは相反するものなので、柔軟と剛健のバランスが最も問題となるでしょう。

山大単体での部員数が減っている今、工学部を含めた他大学とのつながりがより重要になってくるでしょう。極端な話、一緒に合宿へ行ってもいいのではないでしょうか。そういったこともできるような統合的な新体制をつくるべき段階にきていると思います。大学間を超えた人間どうしのつながりが、他の部活とは違うワンゲルの最大に魅力なのですから。

以上、駄文ではありますが、執行部近況報告とさせていただきます。

本部第40期主将　sakima

春合宿コース紹介

1)　サイクリングParty

今回の春合宿では一年ぶりにサイクpartyを作ります。耶麻渓、阿蘇、久住、別府と九州中部の山間部を５泊６日で走る予定です。３年１人、２年２人、１年２人の混成partyとなります。

アプローチは大分県の中津駅まで輪行、そこから国道２１２号線を南下していきます。テン場は中津駅から約１２㎞の耶麻渓風水園キャンプ村。

１日目、さらに２１２を南へ進み、日田市を抜けて熊本県小国町の遊水峡キャンプ場まで約７０㎞の道のりです。一部サイクリングロードを通り、川沿いに進むアップダウンの少ない道なのでさわやかに走りたいところです。

２日目からはいよいよ起伏が激しくなってきます。１日目のテン場から阿蘇の外輪の大観峰まで約５００㍍アップ。ここから外輪山の尾根上にあるミルクロードの下りを一気にかけ下り、JR 赤水駅近くの YMCA 阿蘇キャンプ場に到着。この日は約４２㎞。

３日目は阿蘇山火口西まで自転車でピストン。激坂が続きますが、草千里ヶ浜など見所も多く、山頂でもすばらしい景観が待っているでしょう。後は、来た道を戻って、前日と同じキャンプ場に泊まります。コース距離は約４０㎞です。

４日目、やまなみハイウェイをひた走ります。牧ノ戸峠を越え長者原の久住やまなみキャンプ村へ。距離は約５４㎞。

５日目はすがもり峠から久住山へピストン。合宿中唯一の山行です。自転車は使わない久々の歩きに何か新しい発見を期待したいところです。

最終日は、長者原から湯布院を経由して一気に別府まで駆け抜けます。別府では温泉につかり、旅の疲れをゆっくり癒す予定です。

と、コースは以上の様になっております。自分はワンゲルのサイク合宿を経験したことがなくいろいろ不安はあるのですが、先輩やサイクリング部の協力も得られ、準備は順調に進んでいます。なんとしてもこの合宿は成功させるつもりでがんばっていきます。

PL　sakima

2)　西表島 Party

私の party は西表へ行きます。山中６泊７日予備３日の行程です。

１日目は AP のテン場、南風見田の浜からタクシーで林道途中まで行き、ヤエヤマシ展望台をすぎ、ジャングルに入っていきます。第１山小屋跡がこの日のテン場です。２日目はさらにジャングルの奥深くへと入り、イタジキ出合からサブザックでマヤグスクの滝へピストンをします。そして２日目のテン場、第二山小屋で眠りにつきます。３日目は周りを覆っていたジャングルを抜け、カンピレーの滝、マリウドの滝で疲れた体を癒します。軍艦岩からサバニと呼ばれる船に乗り、両岸にマングローブを見ながら、そしてイリオモテヤマネコを探しながら進んでいきます。浦内橋からはロードを通り、島唯一のトンネル「西表トンネル」を抜け、この日のテン場白浜に着きます。４日目、白浜からはまた船に乗り、ウダラ川河口に渡ります。私は個人的にこのとき見えるゴリラ岩がとても楽しみです。ウダラ川河口からは少しきつい道が続きます。ジメジメとしたジャングルを渡渉しながら進み、そこを抜けると最高の景色が開けます。鹿川には滝や洞窟があり、いろいろな生物と出会えるでしょう。

そしてクイラ渡りをし、クイラ浜、別れ浜とリリーフ歩き、浜歩きをし、南風見田の浜を通って大原で合宿終了となります。

昨年は異常気象による増水のため断念せざるを得なくなったジャングル横断と浜歩き。今年はリベンジして必ずや成功させたいです。P-men の心を一つにして、西表へ出発します!!

PL　下村　公子

～工学部編～

2000 夏合宿報告

南アルプス（白峰三山～塩見岳～荒川三山～赤石岳）

この夏 ８／２２に南アルプスに出発しました。目的は、北岳はもちろん赤石岳を登ることです。昨年僕は南アルプス南部にアフターで行ってきました。ですが天候が悪く赤石岳に登ることができませんでした。赤石山脈なのに赤石岳に登れなかったこともあり、どうしても赤石まで行きたいという気持ちと、北アルプスとは違った雰囲気の南アルプスにどうしても行きたいという個人的な気持ちから南アルプスを計画しました。合宿までの準備も順調に終えることができました。

それでは合宿について報告いたします。結果から申しますと全日程快晴という好天に恵まれ、最後の赤石岳まで行くことができました。

１日目（広河原～北岳肩ノ小屋）

前日のアプローチで甲府駅までやって来て、そこでビバークし、ＡＭ４：００発のバスに乗り広河原に向いました。ＡＭ６：００に到着すると、すでに他の登山客で賑っていました。空には青空が広がり、合宿初日としては絶好の天候でした。そして僕たちはアルプスに足を踏み込みました。大樺沢二俣まで沢沿いの道は涼しく気持ち良かったです。ここから稜線までの急登は差し入れに頂いたペットボトルが８本残っていたので少しばててしまいましたしかし、稜線に出てからの仙丈、甲斐駒は見事でした。そして、眼前に北岳を望みつつ、眠りに就きました。

２日目（北岳肩ノ小屋～農鳥小屋）

この日は北岳山頂での御来光から始まりました。何とも言えない御来光の瞬間は本当に寒さを忘れ、ただ昇りゆく太陽だけを見ていました。その後、初日の疲労に耐えながら間ノ岳を目指しましました。間ノ岳では前日からずっといっしょに来ていたおじさんふたりと写真を撮り、農鳥小屋に進みました。この日は農鳥岳ピストンを翌日にまわし、農鳥小屋で休みました。

３日目（農鳥小屋～熊の平小屋）

この日は農鳥岳ピストンからです。登頂中に御来光を望みつつ、山頂を目指しました。山頂からは北岳～赤石岳まで見ることができ、そして富士山もきれいに見ることができました。僕はここでの眺めがこの合宿の中で一番感動しました。これから間ノ岳～三峰岳をやめ、すぐに三国平に向いました。ガレ場が多く歩きにくかったです。三国平からはすぐに熊の平小屋に向いました。

４日目（熊の平小屋～雪投沢キャンプ場）

この日は特に展望もないので樹林帯をひたすら進みました。そして塩見岳の真下にある雪投沢キャンプ場にてのんびりと過ごしました。

５日目（雪投沢キャンプ場～三伏峠小屋）

この日は塩見岳登頂からです。危険個所としていた塩見岳です。やせ尾根はやはりやせ尾根でした。ピークからは荒川三山をはじめ、農鳥、間ノ岳が望めました。塩見からの下りは少しガレていましたが、なかなかおもしろかったです。この日はこれ以後展望は望めずまたひたすら樹林帯を歩きました。三伏峠小屋は緑に覆われていました。

６日目（三伏峠小屋～高山裏非難小屋）

この日もほぼ樹林帯の中を歩きました。この日は一人だけしかすれ違わず、少しさみしい行程でした。しかし、高山裏非難小屋には元気のいい主人がいました。去年もここにやって来たのですが、相変わらず元気にされていました。過去にここで山大のワンゲルが台風のため沈をしていたという話を聞きました。山大ワンゲルのすごさを感じてしまいました。

７日目（高山裏非難小屋～荒川小屋）

ついに荒川です。いよいよ合宿も終盤を迎えました。荒川のカールを越えると、そこには悪沢岳、赤石岳、そして富士山が望めました。富士山がいつのまにか大きく見えるような所まで来てしまいました。最初は見えるか見えないかくらいの大きさだったのですが。そして、悪沢岳に立ったときはるか遠くに農鳥が見えました。本当に良く歩いたと、P-men の２人を見ながらすこしこみ上げてくるものがありました。荒川小屋では小屋泊りでしたので、カレーライスをぎりぎりまでたべ、その後団体の登山者がいましたのでいろんな話をしました。

８日目（荒川小屋～椹島）

ついに最終日です。この合宿最後の赤石岳を目指し、稜線に出ると富士山の横から日が昇り、絵に描いたような最高の景色でした。ルートの先の方を見るとシカがいました。シカも御来光を見に来ていました。赤石岳から悪沢岳を望み、椹島まで下り２０００Ｍダウンは少しきつかったですが、ついに合宿終了です。下山ビールは最高にうまかったです。

合宿を終えて原と吉田には本当に感謝しています。僕の力足らずの所もあり、迷惑をかけてしまったにもかかわらず、よく僕に文句も言わずに最後まで歩いてくれました。また、先輩方のおかげで合宿を行えることができました。最後まで見守って下さり、本当に深く感謝しております。ありがとうございます。

ＰＬ　佐伯 英敬

コースタイム

・１日目　広河原山荘 → 大樺沢二俣 → 北岳肩の小屋
6：30　9：50　10：55　14：30（９本　５：０７）

・２日目　北岳肩の小屋 → 北岳山頂 → 北岳山荘
4：00　5：00　6：00　7：27　8：11
→ 間ノ岳 → 農鳥小屋（８本　４：３１）
10：27　11：40　12：45

・３日目　農鳥小屋 → 農鳥岳 → 農鳥小屋 → 三国平
4：40　5：35　6：00　6：57　7：45　10：15　10：53
→ 熊ノ平小屋（６本　４：２９）
11：30

・４日目　熊ノ平小屋 → 北荒川岳 → 雪投沢キャンプ場
5：13　8：40　9：30　10：15　（６本　３：０３）

・５日目　雪投沢キャンプ場 → 塩見岳東峰 → 塩見小屋
4：00　5：35　5：53　6：58　7：13
→ 三伏峠小屋（７本　４：４３）
10：10

・６日目　三伏峠小屋 → 烏帽子岳 → 小河内岳
4：01　4：50　5：00　6：19　6：37
→ 高山裏避難小屋（７本　４：１７）
9：25

・７日目　高山裏避難小屋 → 悪沢岳 → 荒川小屋
3：43　8：20　9：00　11：20　（８本　５：１２）

・８日目　荒川小屋 → 大聖寺平 → 赤石岳分岐 → 赤石岳
3：18　3：55　4：05　5：42
→ 赤石岳分岐 → 赤石小屋 → 椹島（９本６：06）
6：12　6：21　8：03　8：18　10：43

合計６０本　３７：２８　　うちサブザック行動　４：１０
７泊８日

第34回80ｋｍ耐久徒歩報告

１０月２８、２９日に昨年復活した８０ｋｍ耐久徒歩を工学部を中心に、宇部高専、宇部短の協力の下、再び行うことができました。昨年は現役、４年生、在学ＯＢの方で行いましたが、今回はＯＢの方の参加もあり、昨年とはまた違った８０ｋｍ耐久徒歩を行うことができ

ました。それでは簡単ですが内容を報告いたします。

２８日に萩の川島公会堂に集合し、２９日午前０時にパーティー行動で出発し、午前７時に第１チェックポイントの道の駅美東に到着、そして午前８時に各自マイペース（自由行動）で出発。走る人、歩く人それぞれがゴールの工学部目指し進みました。途中雨がぱらついたりもしましたが、それがかえって走りやすかったらしく、昨年に比べて全体的に早いペースでゴールしました。優勝は刀根さん（工学部 第３８期）、２位は藤井さん（本部第３８期）、３位は有馬さん（本部 第３９期）という結果になりました。現役が入賞できなかったのが、少し残念ですが、みんな一生懸命ゴールを目指してくれたことが大会本部としてはうれしく思いました。

８０ｋｍ耐久徒歩は歩くことの大切さを知るため、そして８０ｋｍ歩くことで自分自身の心身の向上を目的としています。我々には足があり、それを最大限に生かし、生きている間にどれだけのものを見て、どれだけのことを経験するかが、より良い人生の糧となるのではないでしょうか。我々はワンゲルで様々なことを経験さしてもらっています。８０ｋｍ耐久徒歩がひとつの糧となれればと思います。

最後になりましたが、参加して下さったＯＢの方々には深く感謝しております。来年は今年以上のものを作り上げていきますので、より多くの御参加をお願い致します。そして、昨年８０ｋｍ耐久徒歩を復活して下さった刀根さんに深くお礼申し上げます。これにて報告を終らせていただきます。

第 34 回 80km 耐久徒歩 実行委員長　佐伯 英敬

第 39 期執行部近況報告

現在、工学部ワンダーフォーゲル部は３年１人、２年２人の計３人により活動しています。人数は少数ですが、夏合宿には南アルプスに行き、春合宿には波照間島にサバイバルに行き、８０ｋｍ耐久徒歩、そして今年は４０周年記念など活発に活動しています。また今年は北九州連盟の合ワンにも参加し、下関市立大学などとも交流を深めています。今工学部には、４年生がいませんので、忙しい中、大学院の方に安全対策委員として助言を頂きながら活動しており、OB 会のことについても時間を割いて手伝って頂いています。

今後の活動は、２月に大山に雪山登山、３月に春合宿（サイクリング：大分～阿蘇山）が、大まかな予定です。現在はこの二つと学長杯を大きな目標として日々トレーニングしています。我々執行部は常に向上をテーマに掲げ、ワンゲルのため、そして自分自身ために努力し続けます。

工学部第 39 期執行部 主将 佐伯 英敬

春合宿コース紹介

サイクリング Party

山口大学工学部ワンダーフォーゲル部 2000 年度の春合宿の紹介を致します。

今回の春合宿は「サイクリング」を行うことになりました。普段、山に行くことが多い私たちにとって山とは違う自然を満喫することができるいい機会だと思います。以下に簡単ではありますがコース紹介を致します。まず山口県徳山市からフェリーで大分県国東半島に渡り国道２１３号，１０号線を通って中津まで行きます。この間広い田園地帯の中を快走することができます。中津からは国道２１３号を通り熊本県阿蘇町まで南下します。この間の見所はルートが筑後川の傍を通っている所にあります。阿蘇駅前から阿蘇山の中岳までは１７ km の開放感あふれるメインルートを登って行きます。今回の合宿の大きな見所でもある中岳の大迫力な噴火口が大きな感動を与えてくれると思います。中岳からは登ってきたルートを引き返し、もう１つの大きな見所でもある「やまなみハイウェイ」を通り湯布院まで向かいます。高原の中を縫うように走るこの道は自然の広大さを実感することができます。湯布院からは国道２１０号線を通り、国道１０号線に入って別府の温泉街を通って行きます。それから再び国東半島に戻り快適な海沿いのルートを通って合宿最終地点の国見町に向かいます。以上が春合宿の主なコースです。

コース全体としては結構きついと思いますが、それなりの感動を得ることができますし、生涯忘れることができない合宿になると思います。今回の合宿が成功するためにも日々の活動にこれからも励げんでいきたいと思います。

ＰＬ　原 和義

OB 近況報告

- 本部第４期(昭和 40 年度卒)　加藤征治氏「**東鳳翩山へのアプローチと登山口は変わっておりませんか。登山口に車を駐車できますか？(学生の頃はこんな山行など考えたこともなかったのですが)**」
  →県庁裏から錦鶏湖を通り、21 世紀の森、佐々並に抜ける道路が伸びています。天花畑には以前、天花畑公会堂前というバス停があったらしいのですが、現在はありません。天花畑には大きな駐車場とトイレがあります。そこから 15 分ほど歩くと二ツ堂登山口です。他にもナマナマコース、坂堂峠からのルート、地蔵峠からのルートがあります。東鳳翩山の美しさは今も昔も変わりません。
- 本部第８期(昭和 44 年度卒)　箱田貴代子さん「**６月に西表島に行きましたので、合宿の様子を興味深く読ませていただきました。**」
  →西表島の６月といえば夏真っ盛りですよね。西表ヤマネコに会うことはできましたか？
- 本部第第 11 期(昭和 47 年度卒)　仁木明人氏「**娘が山大に入学し、山口を訪れる機会も増**

え、4月7日(入学式の日)、7月29日の2回、東鳳翩山の山頂に立ちました。登山道が良く整備されていましたが、坂堂峠からの道はすべてのピークを通過する、登り下りの激しい道でまいりました。」

→東鳳翩山は道が良く整備されていて、登山客も多く非常に親しみの持てる山ですね。去年、私は東鳳翩山の南斜面をやぶこぎして山頂にいきました。山頂で出会ったおばちゃん２人がびっくりしていました。

・ 工学部第 26 期(平成元年度卒)　浴本保典氏「**工学部ＷＶのグラウンドの横のＢＯＸ(部室)はまだ残っているのでしょうか？山口に行ったら寄ってみます。**」

→もちろん残っています。BOX の今も昔も変わらないいいところといえば・・・汚いことですかね(？)。

・ 本部第 29 期(平成２年度卒)　松隈好兼氏「**ワンゲルを対象としたホームページをつくっているのでよかったら利用して下さい。**

http://www1.ocn.ne.jp/~kumanoko/」

→27 期～32 期くらいの OB の方々が主に利用されているようです。私も見させていただいております。松隈さんおつかれさまです。

・ 本部第 37 期(平成 10 年度卒)　渡部玄氏「**この夏(というか秋)、僕は穂高に行くことになりました。久々の山行で少々不安ですが、存分に楽しんで来ようと思っています。**」

→本部第 37 期(平成 10 年度卒)の高石豊寿氏、工学部第 36 期(平成 10 年度卒)の堀江淳一氏も参加されたようです。久々の山行はどうでしたか？紅葉はまだでしたか？私も同期の姫野康平と 9 月 14 日から 20 日にかけて剣・立山連峰に行ってきました。今年は残雪が多く、天気も最高で楽しかったのですが、自分の体力のなさを痛感した山行となってしまいました。

編集後記

師走となり、東鳳翮山の頂が気になるようになってきました。歩きながら、自転車に乗りながら、ひとりぼんやりと北の山々を眺めているのです。山口盆地に本格的な冬の到来を告げる(私だけの基準かもしれませんが) 東鳳翮山の初冠雪は今年はまだのようです。

先日、最終トレに参加しました。最後にどうしてもワンゲルのトレーニングに出たいという気持ちが働いたからでした。トレーニング前日、現役部員たちには「明日トレーニングに参加するかもしれんけえ。でも、条件が３つある。天気がよくて、気分もよくて、寝てなかったらな」と言っている自分がいました。おそらくワンゲルに対する懐古の情を悟られるのが恥ずかしかったのでしょう。前日の天気予報に反して雨は降らず、鴻ノ峰からは年末でさらに美しさが増した山口の夜景を望むことができました。

OB の皆様にとって山口大学ワンダーフォーゲル部時代はどのような位置を占めているのでしょうか。掛け替えのないものであると感じておられる先輩方は少なくないと思います。OB 会は先輩方をあの現役時代にいざなう貴重なものであるべきだと私は確信しています。

OB 会のさらなる充実と、旅鳥の雄飛を願っております。それでは、よいお年をお迎えください。

平成 12 年 12 月　　有馬　啓介

Y.U.W.V.

編集：山口大学ワンダーフォーゲル部４年生一同
作成協力：山口大学ワンダーフォーゲル部員一同、多くの OB の皆様